

農業法人列伝 22

県組織の活性化に様々な試み

群馬県富岡市

有限会社 武井農園

代表・武井尚一さん（63 歳）

群馬県農業法人協会会長に就任して 2 年余。「活動が地道すぎ、社会的認知度が決して高くない」と感じたことから組織の活性化に向け、様々な人的増強を図ってきた。

先ず新規会員を募り、48 会員と三倍増にした。賛助会員制には地元の新聞、銀行、種苗会社、農機メーカー等 10 社が応じてくれ、4 月からは 2 つの信用金庫も加わる。あわせて「組織に箔をつけよう」と県出身の元農林公庫総裁高木勇樹さんをはじめ、長くアドバイザーを務めてきた農業指導者、そして県議会農業委員長経験者らにも会友として参画してもらい「ニラミ(笑)を効かせていただく」ことにした。



武井尚一さん

* 社会的な認知度の向上へ

腐心するのは「会員の目と体を組織に向けさせ、活動に積極的に参加して貰うには何をすべきか」という点。講演会 1 つにしても大学の先生では、会員は理由をつけてなかなか足を運んでくれない。そこで衆院議員の小池百合子さんにしたら「わぁっと集まってくれた(笑)」。

社会的な認知度を高めようと上毛新聞社を訪ね、農業・農村の現場を紹介して欲しいと

懇請した。懸命に実情を説明しているうちに、先方は余ほど気に入ってくれたのだろう。

“だったら、あなたが書いてください。”となってしまう、同紙『視点』欄へ既に「農業経営～食料の安定供給が使命」(08 年 12 月 10 日)「食料自給率の向上～生産者、消費者が一体で」(09 年 2 月 19 日)等を寄稿している。

* 企業的な農業経営の構築

39 歳で就農するまで保険会社に勤務していた。加入者にとっては有り難くもないが、「保険会社の正義を貫くことに徹し、手掛けた事故調査での支払拒否率の高さでは常にトップクラスを維持」。エキスパートを任じてきたが、その姿勢は農業に転じても同じで「自己完結できる企業的な経営の構築を目指してきた」。

生産部門は特産の下仁田ねぎ、大根、長ねぎ、キウイフルーツ等を主とする園芸とポリスブラウン 6000 羽を擁する採卵を柱にしている。これに関連する形で力を入れているのが加工部門で、“サラダゴボウ”、洗浄・皮むきした里芋、さらには柚子漬たくあん、切り干し大根等がつくられている。

このほか学校給食への食材供給、さらには東海地域の生協グループへの農産物供給も事業としている。このような量的確保を支えるために周辺 30 戸の協賛農家から仕入れを行っており、さらには近辺で栽培されていない農産物についての調達も業務としている。

父から経営を引き継いだ当時の年産額はおよそ 600 万円。それを前年度実績で 1 億 3500 万円の規模にまで拡大させた。専務の妻・章子さん(59 歳)、常務の長男・正伸さん(34 歳)の他に従業員は 4 人。このほか土曜日曜

出勤だけのパートなど8人が従事する。

正伸さんについては「自分が一步退く分の一步、できれば一步半進み出て欲しい」と見守る。マッチング等の商談会へは取って代わり正伸さんに行かせており、これによって最近相当規模の成約に結びついたが、同時にリスク管理についても学ばせている。むしろ後継者という点で気懸かりなのは協賛農家のそれ。平均で65歳を上回っており、30戸の中で若い跡取りがいるのは4戸に過ぎない。年齢的に行き詰まっているので新たに協賛者を加えていくのが現況で、30戸の数はほとんど動きそうにもない。



武井農園前で従業員のみなさんと共に

* 関係団体と活発な交流を

多方面で地域活動に携わっているが、最も悩ましいのは「農地の遊休化問題」。富岡市は明治初頭、官営製糸場が設置された土地柄からだけに往事には桑園が繁を極めた。それらは既に原野化しており、それがために遊休率は46%にも達している。市遊休農地対策協議会の一員としては桑園跡地を「農地から除外し、原野に登録替えすべき」とするのが持論だ。

日本農業法人協会には「政府とコミュニケーションの取れる組織であって貰いたい」とし、いま群馬県農業法人協会がチャレンジしているような情報発信への積極的な取り組みを望みたい。また全国農業会議所は言うに及ばず、「JAグループとの交流も活発にし、「お互いが持つノウハウを活用しながら農業、農村の発展に努めるべき」とする。

法人協会ニュース

第20回総会を開催しました



当協会は、昨日(3月5日)第20回総会を東京・浅草ビューホテルで開催しました。議決数は会員の過半を超える930(本人出席112、委任状818)となり、審議を経て終了することができました。会員の皆様、都道府県協会事務局の皆様のご協力に心から御礼申し上げます。

今回は、来賓として、農林水産省の今井審議官、全国農業会議所の谷脇事務局長、日本政策金融公庫農林水産事業本部の坂野本部長にご挨拶を頂きました。協議では、うつくしま福島農業法人協会の高橋会長が議長に選任され、上程された平成20年度補正予算、平成21年度の事業計画・収支予算等の議案について、事務局案のとおり承認されました。議案承認の後は、ビジョン行動計画の進捗状況について、各担当の役員から報告されました。

● 本紙に関するお問合せは下記までご連絡ください。 ●

アグリビジネス経営塾

発行：社団法人日本農業法人協会



HP : <http://www.hojin.or.jp>

TEL: 03-6268-9500

FAX: 03-3237-6811

e-mail : juku@hojin.or.jp

©(社)日本農業法人協会2008

本紙記事の無断転載を禁止します